



3月8日 関川中学校



3月19日 女川小学校

## 卒業証書を手

## 今、はばたきの時

各小学校では最後の卒業式を挙

三月八日、関川中学校の「第  
五回卒業証書授与式」が行わ  
れました。  
今年、晴れの門出を迎える  
卒業生は六十三人。式では、  
先生や在校生、保護者、来賓  
の皆さんが見守るなか、嶋貴  
研一校長から一人ひとりに卒  
業証書が手渡されました。

卒業生を代表して伊藤賢人  
さん（前生徒会長・辰田新）  
は「卒業生のみんな、これか  
ら先は別々の道を歩むけど、  
関川中の誇りを持ち、自分の  
夢に向かって頑張りましょう」  
と三年間の思い出を振り返り  
ながら答辞を述べました。  
卒業式終了後は、卒業生が

卒業証書を片手に「はばたき  
の合唱」を声高らかに歌い上  
げ、思い出の学び舎をあとに  
しました。

関川小学校の開校に伴い、  
三月で閉校となる関・安角・  
土沢・川北・女川小学校の最  
後の卒業式が、三月十九日に  
それぞれ行われました。

女川小学校では、真新しい  
学生服に身を包んだ十三人の  
卒業生が晴れの門出を迎え、  
堂々と入場しました。  
式では、大野美恵子校長が

一人ひとりに卒業証書  
を授与。村  
田裕紀さん  
（宮前）に  
は、第一九  
六九号とな  
る女川小学  
校最後の卒  
業証書が手  
渡され、新  
たな門出を  
迎えるのと  
もに、同校  
百三十七年  
の歴史にも  
幕が降ろさ  
れました。

## 4月6日～4月15日 春の全国交通安全運動

～ 春風に のせて伝える 安全運転 ～

新入学（園）シーズンを迎え、新たに通学・通園を始める子どもたちとともに、二輪車や農耕車も増加し始めます。ドライバーも歩行者も、一人ひとりが交通ルールを守り、交通事故に遭わないようにしましょう。

### 運動の重点

- 子どもと高齢者の交通事故防止
- 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- 自転車の安全利用の推進
- 飲酒運転の根絶



4月10日(土)は「交通事故死ゼロを目指す日」

## 妊婦や高齢者が利用できる専用駐車区間が設置されます

妊婦や高齢者などを対象にした専用駐車区間制度が、4月19日からスタートします。専用駐車区間は、病院や公共施設の近くにある道路に設けられ、対象の人は無料で停められます。

専用駐車区間を利用できる方

- 70歳以上の高齢者
- 妊娠中または出産後8週間以内の人
- 聴力が一定の基準に達しない人
- 肢体不自由の障害がある人

\*利用は警察署へ申請し交付された「高齢運転者等標章」が必要です。



標章車専用

「高齢運転者等標章自動車駐車可」の標識

## 上野新駐在所が 移転リニューアル

村上警察署上野新駐在所の新築移転工事が完了し、3月23日から新駐在所での業務が開始されました。

新住所 上野新57番地8  
(上野新JA倉庫隣)  
電話 64-0515(変更なし)



## 「ありがとう 安角小学校」

雪原の校庭に雪灯ろうで感謝の思い



閉校する安角小学校への思いを雪灯ろうで彩りました

二月二十七日、安角小学校の校庭グラウンドを会場に「七ヶ谷郷雪灯ろう祭り」が行わ

れました。この祭りは、安角小学校の閉校に伴い、小学校を会場に

最後の思い出をつくらうと、安角小学校ふれあい会や七ヶ谷郷体育協会、タランペクラブが企画したもの。当日は、一坪ほどの雪が残るグラウンドに全校児童十六人や教職員、地域の皆さんなど約百人がスコップを片手に集合。雪をバケツに入れて固めたものや集落名をはめ込んだ大きいかま

くらなど、約七百個の雪灯ろうを制作しました。暗くなるといよいよ点灯。杵差岳から流れる大石川や流域の七集落などの学区が雪原に浮かび上がると会場は幻想的な雰囲気。訪れた方は、馴れ親しんだ小学校への思い出を語り合ったほか感謝の思いを込めていました。

## 首都圏会員の 皆さんと交流 いで湯の関川 ふる里会

二月二十八日、「いで湯の関川ふる里会」の首都圏交流会が東京上野の精養軒で盛大に開催されました。

「ふるさとを都市の皆さんに届けよう」と、昭和五十八年に発足したふる里会も、今年で二十七年目。現在、会員も二百九十九人となり、大勢の方からふるさと納税などでも応援いただいています。

当日は、首都圏在住の会員の皆さん百十九人のほか、平田大六村長や高橋八男議長を

はじめとした村関係者六十一人が参加。懇親会や二十五年度の継続会員表彰、新米コシヒカリのプレゼント、豪華景品の抽選会などが行われ、会員の皆さんと交流を深めました。



## 自分たちでできる 観光振興を 村観光協会交流会へ

三月十六日、雲母温泉の旅館を会場に「観光交流会」が開催されました。

交流会は、今後の観光地や温泉地の活性化を考えようと、村観光協会が主催したもので、観光協会をはじめ温泉旅館組合や商工会などから約四十人が参加。また、村内福祉施設の職員や(株)新潟県観光協会の職員を講師に招き、福祉行政と観光の連携の講話や、これからの観光振興についてグループ検討などが行われました。

